

鳥害対策 会津大学/鳥研究室×会津若松市様	
課題	近年、都市部においてはカラスをはじめとした生活害鳥が市民生活に影響を与えている。一方で、害鳥対策については都度追いつきを行うのが主で、人的リソースの面でも効果や効率の面でも課題が多い
調査研究手	今年度取り組む内容として（１）昨年度に設置したカメラデータの再解析による害鳥検出手法の改良、（２）会津若松市役所追出町第二庁舎屋上にカメラを設置し、面的に出現予測などを行う手法を構築
結果・分析	(1)昨年度設置のカメラデータから改良したアルゴリズムによって映り込んだ害鳥の画像上の位置を検出し、オプティカルフローなどの画像検出手法によって鳥の移動方向などを推定した上でマップ上に可視化を行った。 (2)上記の手法をもとに、今年度新たに設置したカメラデータから鳥の位置データや移動方向などを推定し、面的に鳥の出現予測や出現確率などをマップ上に可視化する手法の構築を行った。
提言・施策	本手法は、鳥の検出精度にも依存する部分があるが、一定期間カメラを設置しその動画データから撮影現場周辺の鳥の出現確率などを面的に予測することが可能であり、無料のデータ可視化サービスなどを利用することで担当者レベルでのアクセス数であれば鳥の出現予測結果を共有可能である。今後のデータの蓄積と実際の出現状況のすり合わせなどをしていくこと、追いつきなどの対策の効率化について議論をしていくことが可能である。